

ハートがたくさんの村づくり

差別のない、人への思いやりを大切にする、明るい南阿蘇村をつくりましょう。

人権とはなんですか？

人権とは「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利」であって、だれにとっても大切なもの、日常の思いやりの心によって守られなければならないものです。今回も、「人権」と「権利」についてお伝えします。

人権。それは私たちの手で作っていくもの

前回に続き、「人権バスケット」という考え方をを用いて、具体的にお伝えします。

どんな権利が「人権バスケット」に入るのか？
人権の基準ってなんだろう？

人権が存在する目的。それは、人権の尊厳を護ることです。では、尊厳とはなんでしょうか？これを定義するのは簡単ではありませんが、もし自分が尊厳を奪われた状態になったときには、比較的簡単に実感できるでしょう。

たとえば、肌の色や人種などの理由で、他人にバカにされたり、店に入れなかったりすること、自分の考え方を述べただけで、自由を奪われてしまうこと。悪いことをしていないのに、逮捕され、暴力をふるわれること。自分も一員である社会のはずなのに、そのあり方に発言することすら認められないこと。教育を受ける機会を奪われてきたために文字も読めず、人にだまされてしまうこと。こういう状況

になったときに、私たちは、どうしようもない悔しさを感じることでしよう。

このように、誰でも感じる不当な「苦しみ」「悔しさ」を繰り返さないようにするために、一つひとつの権利が人権とされてきました。

ただ、あえて整理するならば、「公正」「自己決定(自由)」「生存」というキーワードで権利が人権となる条件を考えることができます。

世界人権宣言の一条にも「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならぬ」とありますが、これは、このような人権の基本について書いているのです。すべての人は「自由」であるということは、自分の決定を認められなくてはならないということです。自分たちが作る社会のあり方についても、発言し参加することもできなくてはなりません。平等であるということとは、公正に扱われることを求めることができるということです。そして、これらの前提に、人間として認められ

生きることができなくてはならないということがあります。

どの人権の要求の裏にも、必ず自由、公正や命を脅かされている誰かの苦しみがあります。不当な理由で、苦しみが生まれたいように人類が知恵を絞って創り出してきたのが、人権なのです。

第二次世界大戦では、数千万人が命を奪われました。家族を奪われた者、拷問された者、餓死した者、強姦された者、処刑された者、彼らの苦しみが、そして「このような悲劇が二度と起こらないように」という未来への願いが、世界人権宣言という、共通の基準を作り上げたのです。

このように、私たち一人ひとりが、人間が人間らしく生きるための条件を、特別な「権利」とし、その実現を法律・制度として保障する、という発想が人権を生み出していくのです。

(今回は、「世界人権宣言」についてお伝えします。)

村民みんなで「ハートがたくさんの村」をつくりましょう。

役場 人権対策課